

# ごんた坂

第17号

(光陵高校同窓会会報)



〈発行所〉 神奈川県立光陵高等学校光陵会

〈印刷所〉 SALAT 株式会社 サラト

## 第6回 青春 かながわ校歌祭



## 会長挨拶

会長 太田 秀和 (2期生)

我々2期生は、60歳になりました。同期の仲間たちは仕事を引き続き選ぶ者、自由人として生活を楽しむ者など、第二の人生を歩み始めています。

世の中の景気は現在もそして将来においても、しばらくは光を見出すことができません。活況な企業もありますが、多くの企業はリストラ、更には人員削減にシフトしています。この時代に我々が求めることは、一体、なんでしょうか。私は、誠実に生きるという前提で、楽しく日々を送ることだと思います。

その楽しみの一つに光陵の仲間たちに会うことがあります。私自身、光陵の卒業生の皆さんとお会いする機会が増えました。さらに、従来あまり光陵会などに顔を出さなかった方々も徐々に顔を出すようになりました。まさに仲間との集いの場を作る、きっかけの役目をするのが、光陵会だと思っています。

青春かながわ校歌祭にも、新しい顔ぶれが参加してくれています。ただ、校歌を一曲(応援歌も)歌うだけのために練習し、本番に臨んで「楽しかった。来年も来ます」と言って帰って

きます。校歌を歌うことで、光陵時代のいろいろな思い出が湧き上がるだけでなく、この校歌祭に来て仲間たちと語る喜びも大きいのです。

参加すると他校との出会いがあります。他校には負けたくないという強い思いが湧き出てきます。外的要因で母校愛が、さらにふつふつと湧き出てくるという現象に出会い、とまどいを覚えるくらいです。私は賑やかな一人として参加していますが、楽しいですね。皆さんと会場に向う時、舞台に向う時、歌っている時、打上げで交流する時、すべてが楽しいです。一人で参加しても、光陵の卒業生たちですから、すぐに仲間入りできます。理事の古藤田さんのご努力で、光陵会の皆さんが集まれる場として定着してきました。

光陵会の事務局は、学生の皆さんが中心となり、ボランティアで運営しています。光陵会にかかわりを持つ時、事務局の皆さんへのお声掛け、感謝の言葉、アドバイス等をいただければ幸いです。

世界規模で天候不順が続いております。会員の皆様のご健康を心から祈っております。

## 事務局長挨拶

事務局長 佐藤 楓 (42期生)

今年も「ごんた坂」をお届けする季節になりました。1年間の時の流れの早さを感じています。

光陵会は大学生のスタッフを中心に運営されており、他校の同窓会と比較しても珍しい組織です。特に今年度は運営人数も倍近くとなり、フレッシュな意見と行動力で例年以上に活発な活動を行うことができています。時には社会人の先輩方の力をお借りしながら、より充実した活動をするべく日々努力しています。

今年の1月に私たち42期生は成人を迎え同期会を開催する

運びとなり、その企画運営を光陵会が担当しました。また、42期生に限らず様々な期が光陵会を中心として同期会の開催をしており、卒業生同士のつながりの中心として、その役割が果たしていることに喜びを感じています。一方、光陵会の活動に関する認知度がまだ高くないことが課題としてありますが、同期会の開催や総会懇親会、そしてこの会報などを通じて、一人でも多くの方に光陵会の活動を知っていただければ嬉しいです。

44期生の新たな仲間を迎え、光陵会はこれからも発展を続けてまいります。これからも皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



# 平成24年度 光陵会総会・懇親会のご案内

## ○総会

日時：平成24年6月2日（土）  
14：00～（13：30より受付）  
場所：光陵高校第一視聴覚室  
（横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1）  
※上履きは各自でご持参ください。  
会費：無料

## ○懇親会

日時：平成24年6月2日（土）  
17：30～（17：00より受付）  
場所：ワークピア横浜（横浜市中区山下町24-1）  
会費：一般料金 ..... 7,000円  
特別料金（現旧職員）..... 5,000円  
（ご夫婦）..... 10,000円  
（学生）..... 1,000円



お手数ではございますが、ご都合の程を同封のハガキにて**5月8日（火）**までにお知らせください。また、**当日の飛び込み参加も歓迎**いたします。ぜひお越しください。その場合には、右記のメールアドレスまでご連絡いただければ幸いです。  
なお、当日は駐車場所をご用意しておりませんので、**お車でのご来場は固くお断り申し上げます。**

## ●特別講演●

「国宝 尾形光琳「紅白梅図屏風」の謎を解き明かす」

講師 中井 泉氏（東京理科大学教授）

### 講師略歴

1971年 光陵高校卒業（3期生）。  
1975年 東京教育大学理学部化学科卒業。  
1994年 東京理科大学理学部応用化学科助教授。  
1998年 同教授。編著書に『粉末X線解析の実際』（共編、朝倉書店、2009年）などがある。ポータブル分析装置をもって国内の美術館や世界の遺跡で考古遺物の分析調査を行っている。

### 講演内容

日本を代表する傑作にして謎の多い尾形光琳の「紅白梅図屏風」。最近の科学調査で画期的新事実が明らかに。昨年末にはNHKの番組でも取り上げられた内容を、テレビでは取り上げられなかった部分も含めて特別にお話ししていただきます。

## ワークピア横浜にて懇親会を開催!!

今年度も昨年度に引き続き、ワークピア横浜にて懇親会を開催いたします。総会からご参加いただく方には、懇親会会場まで光陵会で交通手段をご用意させていただきます。  
※特別料金（ご夫婦）はパートナーが光陵高校の卒業生でなくても結構です。  
※高校生以下の方は無料です。ぜひご家族でお越し下さい。  
※ご不明な点等ございましたら、光陵会ホームページまたは下記メールアドレスまでご連絡ください。  
URL：http://koryokai.jp/ MAIL：staff@koryokai.jp

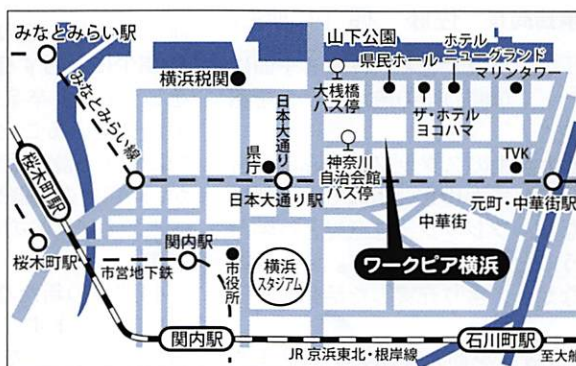
## 4期、14期、24期、34期（卒業アニバーサリー期）の皆様へ

今年卒業40年、30年、20年、10年を迎えられる4期、14期、24期、34期の皆様には『卒業アニバーサリー期』として特にお集まりいただきたいと考えております。当時担任をされていた先生方にもぜひお声掛けをお願いいたします。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

### ～ Pick up ～

昨年も、卒業アニバーサリー期を中心に、幅広い世代の方々にご参加いただきました。また、昨年は光陵高校から懇親会会場のワークピア横浜まで貸し切りバスで移動しましたが、「修学旅行のようで楽しい」といった感想が多く好評でした。今年もバスでの移動を予定しております。思い出話に花を咲かせてみてはいかがでしょうか？（43期 山本航介）

### （ワークピア横浜までの案内）



### アクセス

- みなとみらい線  
日本大通り駅3番出口 徒歩2分
- J R根岸線  
関内駅南口 徒歩15分
- J R根岸線  
石川町駅北口 徒歩13分
- 横浜市営バス  
26系統・大棧橋下車  
8、58、125系統・神奈川  
自治会館前下車



特集  
1

# 新ジャージはじめました

光陵高校のスクールジャージのデザインが平成23年度入学の46期生から変わりました。平成11年度入学の34期生入学時にもジャージのデザイン変更があったため、今回で2回目のデザイン変更となります。スクールジャージのデザインがたった12年で変更になるとは…。旧ジャージの思い出が残る卒業生としても気になる所ではないかと思えます。寒さが厳しくなり、ジャージを着る機会も増えてくる時期に、旧ジャージの45期生と、新ジャージになった46期生に、デザインの変更について質問しました。



—まず、旧ジャージのデザインについて、どう思いますか？

【45期生】私は全身真っ青になってしまうので着るのに抵抗があって、あまり好きではないです。少しでもお洒落に着る為に、ズボンはロールアップして7分丈くらいにして履いています。

【46期生】僕は先輩たちが言うほど、かっこ悪いとは思いません。先輩たちが着ていると、自然とかっこ良く見えるというのがありますけど。

—次に、新ジャージのデザインについて、どう思いますか？

【45期生】旧ジャージに比べてラインが入っていたり、背中にロゴが入っていたり、部活動のチームウェアみたいでかっこいいので羨ましいです。

【46期生】ラインが入っていて、かっこいいです。でも、旧ジャージのズボンには学年色が入っているのに、新ジャージのズボンには入っていないのが気になります。

—最後に、選べるとしたら、どちらのジャージがいいですか？

【45期生】私は新ジャージがいいです。本当に羨ましい限りです。

【46期生】僕も新ジャージがいいです。デザイン変更でかっこ良くなったので。

現役生の反応を聞いて

光陵高校のスクールカラーである青を取り入れたデザインの旧ジャージは、着るのに抵抗があったそうです。旧ジャージを着ていた私も、45期生の「全身真っ青が嫌だ」という気持ちはよく分かります。一方、新ジャージのデザインは旧ジャージのものに比べ、とても好評な様子でした。しかし、旧ジャージを着ている45期生があと1年すると、光陵高校で見られなくなってしまう事は、卒業生としては少し寂しいです。きっと、これからもジャージだけでなく色々な事が変わっていく光陵高校ですが、伝統として引き継がれるものと、新しく変わっていくもの、どちらも大切にしていける光陵高校であり続けて欲しいと思います。

そこで、文中で「旧ジャージ」と面白みのない呼び方をしましたが、着ていたジャージに愛着がわくような素敵な愛称を卒業生で考えませんか？例えば、33期生までが着ていたジャージは愛称で「芋ジャー」と呼ばれています。ぜひ、同封の総会・懇親会の出欠はがきの余白に書いてみてください。

最後に、この特集記事を書くにあたって協力していただいた方に紙面をお借りして、お礼申し上げます。

(43期 八重野なつき)

旧ジャージ



全体が青地で上着の胸元に白色で校章と名前が入っており、首周りには学年色が入っています。ズボンの側面には白色と学年色の太めのラインが斜めに入っています。

新ジャージ



上着の横と腕に白色と灰色のラインが入っており、胸元には白色で名前、学年色で校章が入っています。裏には学年色で「KORYO HIGH SCHOOL」の文字が入っています。ズボンには上着同様のラインが縦に入っています。

## 学年色早見表

1期 青	10期 青	19期 青	28期 青	37期 緑
2期 紺	11期 紺	20期 紺	29期 紺	38期 赤
3期 緑	12期 緑	21期 緑	30期 緑	39期 黄
4期 青	13期 青	22期 青	31期 青	40期 緑
5期 紺	14期 紺	23期 紺	32期 紺	41期 赤
6期 緑	15期 緑	24期 緑	33期 緑	42期 黄
7期 青	16期 青	25期 青	34期 緑	43期 緑
8期 紺	17期 紺	26期 紺	35期 赤	44期 赤
9期 緑	18期 緑	27期 緑	36期 黄	45期 黄

## エアコンが設置されました!!

掃除など生徒自身が率先して環境を作り上げ、暑さ寒さも耐えてきた光陵生ですが、平成23年度よりエアコンが全教室に設置されました。夏場は設定温度を28度にして使っていたそうです。現役生からは、「嬉しい」「快適で勉強がしやすい」というような声が聞けました。生徒にとって、より勉学に打ち込める環境になったようです。



## 光陵、新たなる連携教育のススメ

平成21年度より横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校（以下、附属中）と神奈川県立光陵高等学校（以下、光陵）の「連携中高一貫教育」としての教育展開が始まって早3年、ついに今年度より附属中から光陵への生徒受け入れが始まります。しかし「この連携は結局何の為にするのか？」「そもそも連携って何をやるのか？」と疑問を持つ方も多いことでしょう。そこで今回の特集は鈴木校長先生への取材をもとに、中高大連携、来年度からの高校入試制度の改定などにより変化の渦中にある光陵の今を見ていきます。

（同窓会報ごんた坂の第13号に附属中学校長へのインタビュー、第14号に中高大連携教育をテーマにしたパネルディスカッションの様子の記事がございます。連携教育決定当初の記事ですので、ぜひこの特集と読み比べてこの数年間の連携教育の発展をご覧ください。）

## 1. 中高連携教育がついに始動！

そもそも連携が行われる理由は、横浜国立大学（以下、横浜国大）に附属の高校がなく、他の国立大学で行われている附属校との一貫した教育プログラムの実践が不可能な点にあります。そこで光陵が横浜国大とその附属中を結ぶ高等学校として置かれました。まずは中高6年間の連携教育を目指し、今年度より附属中から上限40名で光陵に連携枠として受け入れられることになります。附属中の校長先生の推薦を受けた受験生がこの連携枠での受験をしますが、英語や数学などのいわゆる学力検査は行われません。その代わり面接、レポート、プレゼンテーションなどの試験が中心になるようです。これはプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などの連携教育で重視する、偏差値では表せない「目に見えない学習」と直結しています。このように附属中で学んだことを光陵で発展させて横浜国大への学びにつなげる一貫教育を目指し、いま光陵では大幅な授業改革が進んでいます。

（連携教育の詳細は光陵高校公式HPへ

<http://www.koryo-h.pen-kanagawa.ed.jp/>）



一年かけて研究したKUの成果を全校の前で発表する様子

## 2. 光陵の授業が変わる！

皆さんが受けてきた典型的な授業というと「黒板に向かって静かに座り、先生の説明を聴く授業」だと思います。しかし連携教育で重視する問題解決力を育てるため、「自分で考えたことを発信し、仲間と共有する授業」を目指し、光陵では授業改革が行われてきました。そこで生徒の考える力を育てるためのKU（Koryo Universe）、教師の授業改革の集大成としての研究発表会が導入されたのです。

言われたことしか出来ない子どもが増える今、自分で課題を見つけそれを自分なりの方法で解決する「問題解決力」の育成が求められています。そこで、自分で研究テーマを決めて主体的に研究を行うKUの授業が導入されました。KUでは個々人のテーマごとにゼミに分かれて研究がおこなわれます。音楽ゼミを例にとると「人が不快に感じる音とは？」「K-POPはなぜ流行したのか？」など研究テーマは様々です。

また、生徒の力だけではなく教師の授業力も大きく向上しています。1年かけて附属中との合同勉強会などで研究されてきた授業を、研究発表会当日に県内高校だけではなく県外の高校や中学校の教員、文部科学省の担当者や横浜国大の教授など多くの視察者の前で公開します。先生方の研究結果である授業を多くの人に見てもらい、意見を頂いて授業の質的向上を目指すとともに、「光陵での新しい授業の形」を知ってもらう目的があります。平成20年度に始まった時には80人ほどだった参加者は200人を超え、生徒から発信を行う「光陵の新しい授業の形」が全国的に注目されていると言えます。

では一体新しい授業とは具体的にどのようなものなのか、3年生の国語で扱われた短歌の授業をご紹介します。この授業では各々のグループに配られた石川啄木の短歌、31文字から想像して1つの物語を考えます。その際には授業で習った啄木の人生、表現技法などをもとにその時の啄木の気持ちを読み取り、物語として文章にするのです。従来の教えてもらうだけの授業と違い、学んだことを授業内で自ら活かす「学び」によって真の自分の力を身につけることができます。これこそ、光陵が提唱する「新しい授業の形」なのです。



### 3. 進む！横浜国大との連携

このような様々な取り組みや、光陵が重視する「人間としてつけるべき力(=人間力)」の重要性が認められ、横浜国大との連携の話もこの1年間で急速に進んでいます。今年、検討委員会が横浜国大で立ち上がり、今まで教育人間科学部とのみの予定だった連携がその他の全学部とも進められることになりました。現時点で行われている施設の貸出、横浜国大の教授による光陵での特別授業の他に、数年後にはついに全学部へ光陵から横浜国大への推薦枠が設けられる予定です。全国でも例をみない国立大学とその附属中学校、そして県立高校による中高大の連携も間近に迫ってきているのです。

光陵での改革が起きるなか、来年度から神奈川県の高校内入試制度が変わります。前期選抜と後期選抜の2つの試験の一本化により全ての受験生が学力試験、面接、それぞれの高校によって決められる特色ある試験の3つによって選抜され、いずれかに偏ることなく全ての力が求められます。受験生だけではなく入試を実施する側である高校も、この入試制度の変化の波に押し流されないようにしなければならないのです。

### 4. 変わる光陵、変わらない光陵。

このように、神奈川県全体で見ても高校単位で見ても変化の渦中にある光陵。それでも創立当初から変わることのないのは、権太坂の上に建つ緑豊かな校舎で学ぶ生徒たちの姿です。坂も多く、駅も遠い、交通の便の悪さを改善するため、バス停を校門前に置くという動きもあったようです。しかし光陵はこの権太坂を毎朝登るといふ少々きつい通学路やあまり遊ぶ場所もないような緑豊かさであるからこそ、高校で大切にされるべき勉強、部活、行事に思いきって時間を割くことができる環境にあります。これは3年間毎日光陵高校に通い、卒業した私たちだからこそわかることではないでしょうか？在校生、卒業生共に大事にしてきた校歌の一節である「光陵われをつくり、われら光陵をつくる」の意味というのはここにあるのでしょうか。守るべき光陵生としての大切な精神は守り、更なる光陵の進化を願いたいです。

(43期 内山 唯)



研究発表会にて先生方が研究なさった授業を受ける生徒の様子

## 光陵卒業生人材バンク登録のお願い



光陵高校では、現在、県立高校の中のモデル校として、リテラシー(社会をより良く生きるための幅広い能力)の育成や、生涯を見据えて人間として生きる力を身につけるためのキャリア教育を通じ、「人間力の育成」を目指した先進的な取り組みを進めています。こうした取り組みの一環として、光陵高校は、卒業生による「キャリアガイダンス」を実施しています。これは、様々な分野で活躍する卒業生が講師となって、自らの勤労観・職業観、これまで経験してきた仕事や若き日の進路選択などについて現役生にお話しし、現役生が将来を考える参考にしてもらおうというプログラムです。原則として毎年3月開催で、これまでに5回実施されています。

このプログラムには毎年多種多様の職業経験を持つ約20名の卒業生が参加しています。光陵会としても、学校の要請を踏まえ、講師として参加いただける卒業生を紹介するという形で協力をしています。具体的には、卒業生有志の方に「キャリアガイダンス」の講師派遣の母体

となる「人材バンク」への登録をお願いし、登録された方の中から講師の斡旋をさせていただいております。

現役の高校生にとって、いろいろな職業経験をお持ちの高校の先輩とお話しできるというのは大変刺激的で、貴重な機会だろうと思います。もちろん卒業生にとってはボランティア活動なのですが、趣旨にご賛同の上人材バンクにご登録いただける方は、ぜひ下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

#### [登録・お問い合わせ先]

「光陵高校内光陵会」宛に書簡を出していただくか  
(住所:〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1)、  
光陵会副会長(4期生) 大道正夫 宛電子メール  
(omichim@nifty.com) でお願います。



平成23年受験結果 (平成22年度43期生進路状況) 一覽

I. 全体的な状況

Table with 2 columns: (1)平成23年3月卒業生, (2)過年度卒業生. Rows include 卒業生数, 就職者数, 進路希望者数, etc.

II. 進路状況

(I)国公立大学

Table of university admissions for national/public universities, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.

Table of university admissions for private universities, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.

Summary table for university admissions, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.



(2)私立大学

Table of university admissions for private universities, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.

Table of university admissions for private universities, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.

Table of university admissions for private universities, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.

(3)短期大学

Table of university admissions for short-term universities, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.

(4)各種・専門学校

Table of university admissions for various vocational schools, listing school names and counts for 平成23年 and 平成21年.



Table titled '平成23年度 部活動実績 (抜粋)' showing sports and club activities with columns for department and performance.

Table titled '教職員異動' showing staff movements, including sections for '平成23年3月 転出者' and '平成23年4月 新着任者'.

Table titled '平成23年4月 新着任者' showing newly appointed staff with columns for name, subject, and previous position.



平成23年度  
**総会報告**

昨年5月21日に平成23年度総会を光陵高等学校第一視聴覚室で開催いたしました。  
議事内容は全てにおいて賛成多数で承認されましたことをご報告いたします。  
議事項目は以下の通りです。

- 一. 平成22年度決算報告  
(ごんた坂第16号7ページ参照)
- 二. 平成23年度予算審議(同上)
- 三. 平成22年度役員解任(同上)
- 四. 平成23年度役員承認(同上)

活動報告の部では、高校への寄付(音姫)のご報告をいたしました。

また今回は、平成23年3月11日の震災に伴い、義援金を募らせていただきました。  
金額は22,986円で赤十字社へ寄付致しました。

皆さまご協力ありがとうございました。

本年度の総会のごんた坂本号2ページにてご案内させて頂いております。

皆さまお誘いあわせの上ご参加ください。



(42期 藤井龍太郎)

**光陵会賛助金芳名簿**

この度、光陵会運営のため賛助金を募りました。以下の通り、皆様の温かいお心遣いをいただきましたことを深く感謝いたしますとともに、ここに報告いたします。

今後も引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。

(以下、敬称略)

小野 敏路 (25-3)

【総会時に賛助金をいただいた方】

千葉 孝 (1-1) 太田 秀和 (2-2)

大道 正夫 (4-1) 古藤田謙治 (5-1)

吉原 隆史 (7-4)

**寄付の報告**

光陵会では昨年度の「音姫」に引き続き、光陵高校へ寄付を行いました。今年度寄贈したのは母校からの要望があった「防災倉庫」です。私立高校では防災用の備品を常備していることが多いようですが、私たちの母校をはじめ公立高校の現状ではそこまで経費をまわしません。東日本大震災で防災意識が高まる今、同窓会組織からの寄付としてはとても価値のあるものにできたと思います。来年度からも引き続き寄付活動を行う予定です。ご意見のある方は同封の総会・懇親会の出欠ハガキに、お気軽にご記入ください。(42期 細田幸介)



**役員紹介**

**平成23年度光陵会役員**

会 長	太田 秀和 (2期生)	
副 会 長	大道 正夫 (4期生)	山本 勉 (4期生)
理 事	古藤田謙治 (5期生)	藤原 真人 (22期生)
	柿崎 祐一 (25期生)	藤原 直人 (31期生)
	小西 直子 (35期生)	佐藤 愛美 (36期生)
	播口 陽介 (36期生)	倉島 悠子 (38期生)
監 査	上原 武 (25期生)	高橋 芳昌 (33期生)
	増田 祐徳 (36期生)	
事務局長	佐藤 楓 (42期生)	
副 局 長	金子 周平 (38期生)	柘植 貴之 (41期生)
	細田 幸介 (42期生)	八重野なつき (43期生)
会 計	平井 裕夏 (42期生)	
会計補佐	中島 佳亮 (41期生)	菊名 直人 (42期生)
	藤井龍太郎 (42期生)	内山 唯 (43期生)
書 記	山本 藍子 (41期生)	丹代 遥 (42期生)
	吉村 友花 (42期生)	小川 祥 (42期生)

**平成24年度光陵会役員(案)**

会 長	太田 秀和 (2期生)	
副 会 長	大道 正夫 (4期生)	山本 勉 (4期生)
	古藤田謙治 (5期生)	中濱こずえ (9期生)
理 事	藤原 真人 (22期生)	柿崎 祐一 (25期生)
	藤原 直人 (31期生)	小西 直子 (35期生)
	佐藤 愛美 (36期生)	播口 陽介 (36期生)
	倉島 悠子 (38期生)	
監 査	上原 武 (25期生)	高橋 芳昌 (33期生)
	増田 祐徳 (36期生)	
事務局長	内山 唯 (43期生)	
副 局 長	柘植 貴之 (41期生)	佐藤 楓 (42期生)
	山本 航介 (43期生)	前鼻 裕貴 (44期生)
会 計	菊名 直人 (42期生)	
会計補佐	平井 裕夏 (42期生)	藤居 悠人 (43期生)
	野村 茉央 (44期生)	
書 記	八重野なつき (43期生)	元尾 太一 (43期生)
	松尾理矢子 (44期生)	

**平成23年度決算**

(収入の部)

入会費・終身会費	¥2,299,475
懇親会会費	¥310,000
賛助金	¥67,000
名簿売上	¥42,000
その他	¥2,607
前年度繰越金	¥18,352,327
合 計	¥21,073,409

(支出の部)

通 信 費	¥62,840
印 刷 費	¥10,450
事 務 費	¥13,540
運 営 費	¥449,868
交 通 費	¥174,340
懇親会会費	¥401,166
H P 運 用 費	¥39,090
会 報 費	¥500,000
校 歌 祭 費	¥71,000
光 陵 祭 費	¥29,510
高 校 寄 付 費	¥199,920
設 備 予 備 費	¥19,800
合 計	¥1,971,524
収 支 差 額	¥19,101,885

**平成24年度予算案**

(収入の部)

入会費・終身会費	¥2,300,000
懇親会会費	¥400,000
賛助金	¥40,000
前年度繰越金	¥19,101,885
合 計	¥21,841,885

(支出の部)

通 信 費	¥100,000
印 刷 費	¥30,000
事 務 費	¥30,000
運 営 費	¥450,000
交 通 費	¥200,000
懇親会会費	¥500,000
H P 運 用 費	¥30,000
会 報 費	¥500,000
校 歌 祭 費	¥82,000
光 陵 祭 費	¥40,000
高 校 寄 付 費	¥200,000
設 備 予 備 費	¥100,000
合 計	¥2,262,000
収 支 差 額	¥19,579,885





## 会報発行協力金のお願い

平成21年より会報の発行を名簿委託業者であります(株)サラトと共同事業とした独立採算制とし、会員の皆様にはその会報発行費用を賛助協力金として1口2,000円をお願いしております。本年度もコンビニエンスストアで決済可能な振込用紙を、失礼を承知の上同封させていただきました。

光陵会事務局は今後も存続し、母校への発展寄与のため尽力してまいりたいと一同強く願っております。何卒、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。また、従来からお願いをさせていただいております光陵会への直接の賛助金も受け付けておりますが、これを機会にぜひ会報発行協力金にご賛同いただけますよう、どうぞよろしくをお願いいたします。

- ※ 会報発行協力金は発行費用を上回ります賛助協力金をいただいた場合、その8割が光陵会への賛助となります。
- ※ 同封の振込用紙は、郵便振込を利用されますと金額の訂正が可能となります。コンビニエンスストアを利用される場合は一律2,000円となりますのでご注意ください。

### 会報アンケート実施のお知らせ

同封させていただきました「総会・懇親会出欠ハガキ兼任状」に、会報についての簡単なアンケートを掲載させていただきました。ぜひ皆さまの会報への素直な感想をお寄せいただけますと、今後の会報編集の助けとなり幸いです。



## 青春かながわ校歌祭

校歌は人生の応援歌... というのは、かながわ校歌振興会前会長(天野氏/湘南高校卒業)の言葉です。この言葉が身にしみる年代、これから切り拓く人生に応援歌なんていらぬよという年代、年代によらずとも思いは人それぞれでしょうが、そんな私たち同窓生が心をひとつにして校歌を歌えるのが、この『青春かながわ校歌祭』です。今年で第7回となる『青春かながわ校歌祭』に今年も光陵会は参加します。

年々参加者も増え昨年は総勢87人(うち在校生27人)で舞台にあがりました。光陵高校の歌の美しい混声四部の響きだけでなく、昨年は新しい試みとして応援歌も混声四部合唱として披露することができました。

今年も昨年以上に多くの皆さんの参加をお待ちしています。例年、光陵高校の視聴覚室などで練習会を行っていますが、当日のみの参加も歓迎します。練習日予定や参加費(楽譜印刷代など昨年は500円)など、詳細はホームページ(<http://koryokai.jp/>)などでお知らせします。

### ～開催案内～

日時：平成24年11月25日(日)  
会場：神奈川芸術劇場(横浜市中区山下町281)  
主催：かながわ校歌振興会  
共催：神奈川県教育委員会



## 会員名簿の取扱について

昨今光陵会の名を騙り、会員の皆様の勤務先への問い合わせや勧誘・物品販売などが行われているようです。これらは光陵会とは一切関係ございませんので、内容をご確認の上、適切に対処くださいますようお願い申し上げます。

また、当然のことながら光陵会では第三者に会員名簿を配布することは一切なく、会員各位の情報が外部に漏れることのないよう、プライバシーマーク取得企業で名簿委託業者の(株)サラトとともに厳重に管理しております。皆様も名簿の取扱いには十分ご注意の上、外部への流出がないよう、ご配慮ください。

光陵会では平成22年5月に会員名簿を発刊いたしました。ご購入を希望される方は下記までお問い合わせください。光陵会事務局よりお手続きの詳細の連絡をさせていただきます。事務局の定例作業等での対応となりますため、ご入金のご確認後1カ月程度のお時間をいただいております。期間の余裕を持ってご連絡いただけますと幸いです。なお、会員名簿はお一人様一冊までとなります。

住所等変更の際には会報同封のハガキ、もしくは、名簿巻末にごいます住所変更ハガキにてお知らせいただくか、下記メールアドレスまでご一報いただけますよう、よろしくをお願いいたします。

宛先:「光陵会事務局メールアドレス」 [staff@koryokai.jp](mailto:staff@koryokai.jp)

## 同窓生向けのSNSのお知らせ

卒業後の交流の場として同窓生向けのSNSが運営されています。加入希望、お問い合わせはこちらへお願いします。

URL: <http://www.koryo.gr.jp/sns/>  
mail: [koryo-kai-request@koryo.gr.jp](mailto:koryo-kai-request@koryo.gr.jp)  
運営:光陵会メーリングリスト([koryo.gr.jp](http://koryo.gr.jp))

### あ と が き

今年も春の訪れとともに、卒業生の皆様にこの会報をお届けすることができ、大変うれしく思います。第17号「ごんた坂」、いかがでしたか。今回も42期・43期を中心とした学生スタッフが主体となり、話し合いを重ねながらより充実した会報を目指して制作を行いました。同封のハガキにアンケートをご用意しましたので、「ごんた坂」をさらに魅力的にするためにぜひ皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

人と人のつながりが見つめなおされている今、母校という共通の場を持つ力の大きさを感じています。総会・懇親会は幅広い世代の光陵生と交流できる絶好の機会です。これまで参加されていない方もぜひ一度足をお運びください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。また、光陵会ではSNSや光陵会Webサイト(<http://koryokai.jp/>)もご用意しております。この機会にぜひご覧ください。

会報を発行するにあたり、ご協力いただいた多くの皆様へ心より感謝申し上げます。事務局では4月から新たに44期の有志を加えるとともに、現役生との交流も図りながら、より一層活発な活動を行いたいと思っております。最後に会員の皆様のご多幸をお祈りしつつあとかきに代えさせていただきます。

(事務局一同 文・43期 山本 航介)